



BARBARA.ワイヤー入りレースのブラジャー、ブルーロワイヤル。2012。
LEJABY.カップブラ白いビーズ付き、透明ストラップ肩ひも、タトウ効果。2002。



(CHANTELLE).コルセット、伸縮性ニット、調節可能なボーン付き。1910年頃



(CHANTELLE)バスト・サポート、伸縮性ニット、前の真珠のボタンでしめ、後ろを紐で結び、サテンとコットン製の肩ひも。1905-1910年頃



LEJABY.ノーカップブラ、サテンとコットン製のレース、肌色。1930年代
LEJABY.ワイヤーレスブラ、サテンとコットン製、肌色。自由に調節可能な肩ひも。1939



LOU.ワイヤー入りブラ、レースはマリンブルーのナイロン製、カップは白いナイロン製のプリーツ入り。背中と肩ひもは調整可能。1950年代後半1960年代初旬
EMPREINTE.カーターベルト、ナイロン製マリンブルーのレース付き、白い刺繍のマリンの穴付きリボン。1950年代後半1960年代初旬

SIMONE PERELE.モデルソレイユ (=太陽)、レースのカーターベルト、ナイロン製、マリンブルー。1960
LEJABY.ビスチェ白いナイロン製のボーン付き、ワイヤー入りブラ、背中は伸縮性あり、調節可能な肩ひも。
SIMONE PERELE.レースのゲビエール、ナイロン製、白地にブルーマリン、ワイヤー入りブラ、ベティコートの下にカーターベルト。1950年代後半1960年代初旬



EMPREINTE.ブルマー、ナイロン製、ピンクと白の縞。1960年代初旬
EMPREINTE.カーターベルト、ナイロン製、ピンクと白の縞。1960年代初旬
AUBADE.ワイヤーレスブラ、ピンクのヴィシー(コットン)、調節可能な肩ひも。1960年代
AUBADE.ショーツ、ピンクのヴィシー(コットン)、ブラジャーとコーディネイト。1960年代

最上級の伝統

フランスを代表する11ブランド-AUBADE, BARBARA, CHANTELLE, EMPREINTE, IMPLICITE, LISE CHARME, LOU, MAISON LEJABY, PASSIONATA, PRINCESSE TAM TAM, SIMONE PERELE - がこのたび初めてアーカイブを開けて宝を披露します。フランスのランジェリーの歴史が、風俗の歴史と密接な関係にある事を体感する絶好の機会です。2012年のパリを皮切りに、ロンドン、上海、ドバイ、ベルリン、ニューヨーク、モスクワなど世界各国を巡回してきたヴィンテージから現代までの130点以上のランジェリーを紹介するフレンチ・ランジェリー展Lingerie Française (プロミンコル主催)がいよいよ2014年夏、東京で開催されます。

コルセット!

2点のランジェリーの制作年は一世紀以上も隔たりがありますが、両方とも着心地の良さへの追及、改良を重ねエレガントで高性能のものを作り上げた点では通じるものがあります。19世紀末からフランスランジェリーが世界中から信頼されて来たのもランジェリー制作のこだわりからでしょう。

コルセットがふたつにわかれます

19世紀、フランスは世界第一のコルセット輸出国でした。女性はコルセットを身に着けていなければエレガントとは言えない時代でした。背筋がまっすぐな、胸が高く突き出しそして細いウエスト...1900年には女性は体はSの字にひねられ、デリケートでかさばって窮屈な洋服は女性にとって動きにくいものでした...
第一次大戦直前にコルセットはふたつの部分に分かれました:背中で結ぶ胸を抑える部分とウエストを絞める部分とにです。当時フランスのメーカーが開発した浸食性のニットのおかげで下着はかなり着心地の良いものに進化していました。

ブラジャーとガードル

第一次世界大戦後コルセットは姿を消します。そのかわりにオーダーメイドのブラジャーとガードルが登場します。1920年代にはオーダーメイドのガードルがギャルソン・ルックの女性たちのフォルムを平らにおさえます。1930年代には逆にガードルがファーム・フルール、つまり花のようなフェミニンな女性の体を形作ります。このようにフランスのコルセット職人の技は時代の需要に応じて代々継承されていきました。

ナイロンの時代

コルセット職人の仕立ての技を受け継いで、第二次大戦後は工場下着の大量生産されました。1947年にクリスチャン・ディオールがニュールックに提唱したスタイル:胸を膨らませ、ウエストを絞り、腰に丸みをおびせ...が大きく影響します。ランジェリーの新しい素材としてナイロンを導入して、すべての女性によりカラフルで洗礼された商品を届けました。

自由な息吹

1960年代、フランスランジェリー界にフレッシュな風が吹きます:若者が流行の波を先導、細長いシルエット、なるべく小さく、上についた胸というスタイルを提唱します。下着メーカーもこの傾向に従います。ブリジット・バルドーがはやらせたピンクのビシーは有名です。この時代からショーツとブラがお揃いになります。



LINGERIE FRANÇAISE

フランス・ランジェリー展

AUBADE • BARBARA • CHANTELLE • EMPREINTE IMPLICITE • LISE CHARMEL • LOU • MAISON LEJABY PASSIONATA • PRINCESSE TAM.TAM • SIMONE PÉRELE

AUBADE.ワイヤーレスブラ、ホルターネック、レースはナイロン製、ナイログリーン。1970
EMPREINTE.ワイヤーレスブラ、レース、ナイロン製、淡青緑色。1970
AUBADE.ワイヤーレスブラ、ホルターネック、レース、ナイロン製、パール色。1970
LEJABY.ワイヤーレスブラ、レース、ナイロン製、イエロー。1970

AUBADE.ボディー、黒、ポリアミドとライクラ製。1980年代
BARBARA.«Beauty Perfect».ワイヤー入りブラ、ナイロン製のレース。2012
PRINCESSE TAM-TAM.«Angora».ボディー、コットンとライクラ製、ワイヤー入りブラ。1990

LEJABY.デミカップブラ、カップドットプリント、カレー地方のレース。2012。
PRINCESSE TAM-TAM.«Confetti».ワイヤー入りブラ、白地のコットンに黒いドット。1989。
LOU.«Dolce Vita».ブルマー、コットン製、アイボリー、黒いドットとストライププリント。2007。
LISE CHARMEL.デミカップブラ、ホワイトシブ。1996。
PASSIONATA.デミカップ黒地のコットンに白いストライプ。
IMPLICITE.«Tourmaline».ガーターベルト、黒。2011。

PASSIONATA.しっかりした固めのパテッドブラ、肌色、透明ストラップ。
CHANTELLE.ヌードブラ、ポリアミドとライクラ製、ソフトパテッドパット。
LEJABY.«Nuages».ソフトパテッドブラ、肌色。1995。
IMPLICITE.«Néon».パット付きヌードブラ、肌色。2010。
BARBARA.«Athéa».ブラジャー、マイクロファイバー製、白。1984。

LISE CHARMEL.«オートジュエリー»コレクション。しっかりした固めのパットブラジャー、特別なレース付き。2012。
LISE CHARMEL.«オートジュエリー»コレクション。しっかりした固めのパットブラジャー、シルバー
メタルを散りばめて。2012。
SIMONE PERELE.«Stiletto».2つにわかれたゲビエール、ポリアミド、ポリウレタン、ポリエステル、スパンデックス製、茶と黒。2008。

ランジェリーと女性の解放

フェミニストは、男性支配の社会からの解放の証としてランジェリーを燃やしてしまったのですが...実際は、彼女たちはブラジャーを捨てることはできませんでした。はたからはほとんど見えなくて、非常に軽く、カラフルな1970年代のブラジャーは、何よりも機能性に優れていました。ランジェリーで女性が遊び心を持って選んで魅力を引き立たせて、人を魅了するのはもちろん、女性自身も身に着けることで気分爽快に！

シック、シック、アイ、アイ、アイ！

シックでセクシーで着心地抜群！ライクラ繊維という新しい素材の登場で、1980年代はスポーツやダイエットや化粧品や美容整形で整った体型を全面に出すボディーが全盛期。モードが爆発して、ランジェリーも流行の最先端へ。

なんてシックな！

ボーイッシュ、フェミニン、ドット、ストライプ、チェック、飾りがいっぱい、シンプルデザイン、フランスランジェリーは流行と共に進歩します。季節ごとにたえまなく形も素材、模様も色も変化して、女性達が心地よく身につけられて、美しく魅力的になるためのランジェリーの種類も未知数です。

レス・イズ・モア

最新の技術を駆使して開発された肌色のブラジャー（ヌードブラ）は、身につけているのを忘れてしまうほどです。マイクロファイバーとライクラ繊維を用いて胸に自然な丸みをおびさせ、いままでにない軽い感覚です。第二の皮膚となったインテリジェンス溢れるランジェリーは、流行より個性を大切に、下着メーカーがますます女性の意見に耳を傾け、彼女たちの要望を反映するようになりました。

新しい世紀の幕開け

スポーツ性に優れているか、機能重視であるか、やわらかいものであるか、セクシーなものであるか、さまざまな特徴を持つブラジャー。すべてのブラジャーに共通する点は、みな30もの小さなパーツをミリ単位でよせ合わせてつくられたたいへん緻密な作業であること。そのためにつねに研究開発が続けられています。カレー地方のレースやオートクチュールで使われるような洗礼された刺繍などを用いるなど、あらゆる工夫を駆使して..つねに繊細で上品なランジェリー作りを心がけています！

